

平成19年度 第3回平田地域協議会 会議記録（抜粋）

○日 時 平成19年 9月14日（金）午前9時30分～12時00分

○場 所 平田総合支所 大会議室

○出席委員 12名 1号委員 丸山賢治、齋藤孝雄、石川敏行、高橋絹子、西田 克、
菅原律子

2号委員 佐藤富雄、富樫文雄、佐藤良二

3号委員 佐藤達也、富樫美雪、藤原幸雄

（※1号委員：公共的団体推薦、2号委員：識見委員、3号委員：公募委員）

○欠席委員 3名 1号委員 阿部時男、今井英夫、 2号委員 小林隆逸、

○職 員 平田総合支所長：佐藤富雄、地域振興課長：齋藤啓一、市民福祉課長：久松勝郎、
建設課長：鈴木良寿、産業課長：尾形 力、教育振興主査：加藤栄一、地域振興
課課長補佐：石川忠春、地域振興主査兼地域振興係長：佐藤良広

○傍 聴 者 4名

< 協議会次第 >

○市民憲章の唱和

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 平田総合支所長あいさつ

4. 会議録署名委員の選出

5. 報 告

（1）学校統合構想について

（2）タウンセンター構想について

（3）駐在所の統合について

6. 協 議

（1）コミュニティ振興組織について

（2）20年度地域づくり予算について

（3）その他

7. その他

8. 閉 会

●開会に先立ち、欠席委員を報告。

●その後、全員で酒田市市民憲章を唱和し、開会する。

1. 開 会 … (進行を務める地域振興課長が開会する。)

2. 会長あいさつ

午前中の会議となったが多忙な中参加いただき感謝申し上げます。収穫、食欲、スポーツの秋を迎えた。地域の大イベントである調布学園ファームステイは、各家庭の協力により成功裡に実施でき、私にも喜びの声が数多く届いている。関係者に感謝申し上げ、また、あらためて昨今の世界、国内の殺伐とした動きを見ると、若者、子どもの声が地域に上がることが、地域に潤いを与えることを実感した。私事だが体験農業も来週に予定している。26年となり地域交流人口の拡大、平田応援団づくりに微力ながら協力してきている。

本日は限られた時間だが、我々の役割である市民ニーズに的確に応えた協議を進めたていきたいので、委員各位のご協力を願いたい。

3. 平田総合支所長あいさつ

7月20日に続いて第3回の協議会となった。8月1日の梅雨明け以降、山形の持つ40.8℃の記録まで破られるという猛暑となった。当地域としては8月14日の目ん玉夏祭りの花火大会は、これまでにないほどの帰省の方々でにぎわった。商工会を始め実行委員の方々に感謝したい。また8月22日豪雨、9月7日の台風9号に対し支所としても警戒態勢を作った。幸いにも農業施設等の小さな被害で終わり、実りの秋を迎えることができ安堵している。

さて、本日は報告が3点ある。タウンセンター構想については、前回、支所の意見が求められていることを報告したが、本所に報告した内容等について、小中学校の統廃合については現時点での市の構想案、内容を教育振興室から、駐在所については、北俣、飛鳥の両駐在所を統合し、飛鳥駐在所を平田駐在所とする方針が県警から示されたのでその内容を、各々報告したい。

コミュニティ振興組織については、前回の議論をふまえ事務局でも資料を準備したので、次回に向けて引き続き議論を深めていただきたい。今さら言うまでもなく、コミ振は、自分たちで出来ることを自ら行う地域づくりの実行隊であり、委員からは平田地域にふさわしい姿を議論いただきたい。なお、まだその判断材料なる市の支援制度が決定になっていないが、施設維持費、活動費、そして人件費への支援が鋭意検討されている。これからの地域づくりを進めるという視点で議論を深めていただきたい。

4. 会議録署名委員の選出 … (5番 石川敏行委員を選出)

5. 報告

(議長より報告事項は一括して説明の後、質疑を行う旨の要請があり、各項目について、それぞれ担当より報告される。)

(1) 学校統合構想について

(教育振興主査より資料に基づき、市の統合構想案について報告される。)

(2) タウンセンター構想について

(支所長より3支所のタウンセンター構想及び平田総合支所としての検討結果について報告される。内容としては、タウンセンターに支所機能がすべて移転するには、事務スペースや書類保管等の執務に関わる機能の課題があること。また、施設整備のために補助金、起債等が活用されているが、一般行政事務所としては目的外となり返還等の手続きも必要となることなど。支所としては、それらをふまえ庁舎一階を支所として活用する提案を本所にし、引き続き協議中であることが報告される。)

(3) 駐在所の統合について

(地域振興課長より、警察署より平成21年4月より飛鳥駐在所と北俣駐在所が統合し、現在の飛鳥駐在所に2名を配置する方針が示されたことが報告される。)

<質疑>

○ 富樫会長

報告を一通り受けたが、委員から質問を受けたい。

<学校統合構想について>

○ 佐藤(良)委員

学校統合は、中学校がナンバースクール化する方針と受けた。郡部地域の特色を生かした学校を考える必要がある。

○ 教育振興主査

大切な意見であり、室長に報告し、教育委員会の議論に反映できるようにしたい。

○ 佐藤(富)委員

この構想は学区再編審議会で検討されたもので、私と飛鳥中学校のPTA会長が参加しており、若干、補足をさせていただく。色々な議論がなされているが、この表にある7項目は特に近々対応が必要な統合であり、特に八幡地域の小学校、鳥海中などは結論を求められている。議論では、地域性や住民感情を大切にしているが、人数などで比較的ドライに割り切っている部分もある。八幡地域でも東陽小を例に検討しているようだ。

保護者からは複式学級への不安などが出ている。田沢小の目標年次は示されていない。地元の意見調整を大切にしていると受け止めている。

○ 佐藤（良）委員

旧酒田市のいわゆる郡部地域に中学校が一枚も無くなるのが良いのかどうか、不安も大きい。

○ 西田委員

この資料には、松山地域の小学校が載っていないが、何か理由があるのか。また、田沢小学校は補助金の関係で何年間統合できないのか。

○ 教育振興主査

松山地域では内郷小学校が先ほど改築された。現在、具体的な統合の話題は無いようだ。田沢小学校の場合、改築してから10年間は補助金のこともあり統合しないという方針にあったが、現在、統合の議論の際は複式学級など児童数の課題を重視しているが、補助金に関することまでは踏み込んで議論していないようだ。

○ 藤原委員

2月に山形新聞の報道で資料の1.2.3については市教委の方針として報じられた。しかし、その時鳥海中は六中にとということだった。今回の資料では変更になっており市民は疑問に感じる。市教委に機会をとらえ適切な情報提供をお願いしてほしい。

○ 教育振興主査

デリケートな問題であり、情報提供は適切に行いたい。地域協議会で意見があったことを伝えたい。

○ 富樫会長

学校統合については委員各位の思いも色々あるだろうが、報告事項でもあり、この場で統合の是非の議論も出来ないなので、次に進む。

タウンセンター構想について質疑のある方は発言を。

<タウンセンター構想について>

○ 齋藤委員

支所として提案したという一階に支所を置く案を支持したい。この庁舎は平田地域の支えであり、感情的には、合併で無条件降伏し城を明け渡すような印象を持つ住民もいるだろう。問題は支所機能をどの程度残すのかであり、タウンセンターに移行するにしても、どういった部分が残るかを明らかにしてほしい。

○ 富樫会長

平田診療所の件をその他で予定していたが、関連もあるので市民福祉課長より医師公募の状況などもここで説明いただく。また、現時点ではタウンセンター構想は未定稿の段階にあるようだが支所長より見通し等について答弁いただきたい。

○ 市民福祉課長

ご承知のとおり、9月末まで医師を公募している。内容確認の問い合わせはあったが、正式の応募は無い。結果をふまえ10月以降、酒田市全体の行政の中で検討して行くことになる。

○ 支所長

合併は最大の行政改革であり、合併後も行革プランを策定し、人件費の削減などに努めてきている。本所、支所問わず組織のスリム化は避けて通れない課題である。支所機能のあり方についても20年度の予算編成に併せ作業中である。前回の協議会でも支所廃止の時期を明らかにすべきという意見もあったが、合併特例が10年間継続されること、支所は合併協議で住民の激変緩和のため置いたことなどをふまえ、将来を見通しながら議論されている。

○ 佐藤（良）委員

総合計画では支所機能を検討することとなっている。福祉関係ではコミ振に地区委員を置いて推進するなど、支所機能がますます弱まっていくのではないかと。

○ 支所長

社会福祉協議会については十分な説明はできないが、旧市では、コミ振へ社協業務を移行し学区社協として活動している。しかし、行政の仕事をコミ振に丸投げということはない。コミ振は行政の肩代りではなく、自ら地域づくりをする目的で組織され、行政と協働で地域づくりを行うものと認識している。

○ 丸山委員

私も支所機能を庁舎一階に残したい意見である。また、商工会は20年4月に合併するが、本所機能を平田地域に置くことになっており、農村環境改善センターが候補になっている。商工会も支所と共に地域の振興を担って行きたいものだ。ところで合併商工会として市の施設の活用要請について状況はどうなっているか。

○ 支所長

事務所を平田地域内に置くこととなり公的施設の提供の要請がなされ、農村環境改善センターを含め検討している。しかし、平田地域の公の施設にはすべて補助金、起債等が充当されておりその整備目的外の活用となることが課題になっている。このことは合併によって発生した施設の有効利用という観点で、県等に要望するなど条件整備を進めている状況である。

○ 富樫会長

報告についての質疑はこの程度とし、次の協議に進み、コミュニティ振興組織について議論したいと思うがいかがか。（一同異議無しの声）

6. 協 議

(1) コミュニティ振興組織について

(地域振興課長より、これまでの議論をふまえてコミュニティ振興組織の設置のねらい、市の方針、平田地域での課題等について整理した資料2-1を説明。特に平田地域として組織づくりの課題となる分館に代わる新たなくくり、現分館施設の取扱い、支所・団体との関係などについてこれまでの議論や出されている課題を確認した。地域振興主査より、それらの課題への対応方法について各パターン毎に検討資料が提示され、休憩を挟みその後、意見交換に入った。)

(休憩)

○ 富樫会長

時間は限られているが、このコミ振に関しては十分に検討していきたい。前回の会議でもCの平田ひとつについての意見も多く、事務局からはそのあたりの課題も提示されたので、委員の意見を願いたい。

○ 石川委員

前回、Cのパターンが酒田市全体の中で可能性があるのか確認してほしいと発言したが、事務局の説明から可能であると判断した。また住民負担の資料も求めていたが、現在の状況を調査いただき感謝する。いよいよ次回あたりで方向性を出したいという意見もあるようだが、支所機能も縮小する傾向の中でコミ振をどういう方向にするかも重要な観点だ。郡鏡地域では、住民感情としてはどこかにくつつくのはいやだという、いかばかりかの抵抗があるのも事実で、現在の分館地域のまとまりも支部なりで残し、中山間地域から出ていた平田ひとつのまとまりを分けないでくれと言う意見も尊重したい。Cのひとつで組織化することが可能ならば、負担が少々増えても一本化が良いと考える。分割するB案は支持できない。

○ 富樫会長

市の財政環境等で10コミュニティはできないということで、新たに10分館の再編が求められているわけだが、石川委員からCの支持があったが、委員同志でお互いに意見を出し合ってみたい。

○ 菅原副会長

8月27日に婦人会として地域振興課に出前講座をお願いしコミ振の勉強会を行った。山間地域の婦人の参加は残念ながら無く、南平田地域の婦人のみで行った。勉強会ではコミ振のねらいのほか、平田地域の各地域の世帯数や人口の推移などを確認し、高齢者世帯が増加している問題などを再認識した。山間地域の婦人からは一緒になってやっていきたいという意見が多く、Cのひとつが良いと考えている。

○ 佐藤（富）委員

前回はCについての意見が多く私もCを中心にと考えてきた。しかし、今日の資料を見て課題も多く危うい感じがしている。それは果たして平田ひとつがコミュニティということが出来るかだ。無理なこじつけにはならないのか。Bと比較すると、支部体制があり地域の意見等をまとめ上げるには明らかに三重構造となり、わずらわしい印象もある。

○ 富樫（美）委員

B、C共にどちらもメリット、デメリットがあると感じる。Cのひとつの場合、地域の伝統文化の継承活動などに支障がでないか不安な面がある。

○ 高橋委員

ひとつか、複数か大変悩ましい。福祉関係の視点から見ると、Bではこれまでの民生児童委員や社会福祉協議会が平田ひとつとして行ってきたことがどうなるのか問題がある。学区社協という形も作ることはなるが、先ほど話が出たが、山間地域では年々人口が減り将来どうなるか大きな不安を持っている。平田ひとつで目が届く体制をつくり、平田として力を大きくして5年後、10年後に備えることも重要ではないか。

○ 佐藤（良）委員

区長会でもさらに勉強していく必要はあるが、学区社協という活動を意識しなければならない。その活動はコミ振が母体となり、財政的な負担も求められることだ。これまでの分館の独自性を生かしてコミュニティをつくるか、平田全体を意識してつくるのか、議論は分かれるところだ。Cの平田ひとつでは、組織の柱としてこれまでの分館交流事業のような共通事業を主に置くことが必要である。コミ振としてそのような事業をできるのか。また、敬老会もコミ振で行うものだが、現在、個々の分館（南平田は合同）で行っている。これからも地区毎に行うならコミ振として疑問もある。

○ 富樫会長

委員各位には各組織、団体における意見をこの場に反映する役目もあり、そうした状況もふまえさらに意見を願いたい。

○ 佐藤（達）委員

コミ振は、これまで旧酒田市では小学校区を基本にしてきた。田沢小学校も将来南平田小学校と統合する方向にあるが、現時点では複数の学区となる。Cの場合、ひとつは距離が遠くなり一体感が持てるかという心配と、例えば、大きくても小さくても30人の役員体制が必要だとすれば、大きくなることで参加意識の低下が心配される。

○ 西田委員

現在、体育協会は平田全域を対象としているが、地域のスポーツ振興は分館体育部や体育指導員も担っている。平田の体育協会は、市の体育協会と違って競技団体の他、地域スポーツの方々を取込んでいる。またCでは支所業務の見直しが必要と指摘されてい

るが、支所が将来窓口業務に近づくということは、コミ振が数個あっても同じである。支所とコミ振の関係を見直し、支所に頼らず自立した地域づくりを行えるかどうかと、Cの平田ひとつは別の問題とを感じる。また、平田ひとつとなった場合、住民負担がどの程度になるか重要であり試算をしてほしい。体育協会として、分館や地域のスポーツ活動がいくらだと運営できるのか、継続できるか一番議論が必要だ。コミュニティ組織は構成員の意見が反映できる直接民主主義が望ましいと考える。Cは結果的に三重構造となり良いとは言い切れないし、負担が増えてもCという意見もあったが、一人で何十人分もの負担することはもちろん不可能である。Bの場合でも各パターンで違いうだろうが、CとBでの住民負担がどうなるか示す必要がある。

○ 藤原委員

3号委員として率直な意見を申し上げると、先ほど発言した佐藤（富）委員と同じ心境である。事務局が提示した資料でもCの場合、努力が求められる、工夫が必要、懸念があるなど多くの課題があることが示された。住民が心ひとつにして汗を流しコミ振を運営していく努力が必要と感じている。社会教育に携わっていた当時、指導を仰いだ佐藤信一氏は、コミュニティの重要な要素として「地域性」と「共同性」が重要と唱えられていた。地域性とは生活圏、社会圏で、生活していく基本となる圏域であり、共同性は心ひとつにして行動、活動できるかと言うことである。この観点からするとCは大きな課題をはらんでいると言える。

一方、現状では限界集落の問題など中山間地域は厳しい状況にある。今は何とかなくても将来に向けた格差を考える必要もある。Bの2～4コミ振とした場合、高齢化し、世帯、人口が減る地域と近い将来、格差が目に見えてくるのではないか。そういう将来に向け厳しい見通しにある状況が解っているのに地域毎にやりなさいというより、平田地域が一緒になっていくことがベターかなという心境にある。正直、揺れているが、平田ひとつは合併によって失われつつあるものを取り戻し、平田としての連帯、つながりをよみがえらせることができるのではないかと期待したい。

最後に、経費の問題、コミュニティ施設を持っているところは経費がかさんでいる。平田ひとつでのプールではなく、施設を持っている集落など恩恵を受けている地区の一定の負担増もやむを得ない。

○ 富樫会長

各分館の負担状況などの資料が提示されているが事務局で補足を。

○ 地域振興主査

平田地域では複数地区で分館を構成している山元等の6分館と、地区と分館が一致している飛鳥・砂越等4分館で状況が異なる。つまり、飛鳥等では地区費の中に分館（公民館）費が含まれ、組織としても区別できないまさにコミ振的な活動を既に行っている。一方、山元等ではこの金額が純粋に公民館活動の費用負担である。ただし別途地区費は

徴収されており、調査では、山間地域では概ね年額2～4万円近くの負担で地区集会施設の管理などをまかなっている。その中には共聴アンテナ組合などの負担がある。なお、分館の活動及び施設管理には指定管理委託料が支払われており、10分館の施設管理には現状では大きな負担は無い。地区費の状況などもさらに調査中であり今後示したい。

○ 丸山委員

基本的にはCのひとつと考える。平田地域は10分館体制で平田の地域づくりを行ってきた。Bの山場、平場の2つのくり方は好ましくないとこれまでもこの場で言われてきたように、酒田市と合併したこの時代、また限界集落などが懸念される時代としてひとつにまとまる必要があると認識している。問題は、建物の活用、維持管理を市が行うことを明確にし、コミュニティとしてはひとつでも39自治会とうまく機能していくことが必要である。

○ 齋藤委員

コミ振と支所の関連の図もあるが、支所が窓口業務になって行く想定の中では、Bの連絡会も成り立たないと考える。また、三重構造については、Bでも我々複数集落で分館を構成している地域では同じである。Cは今の形を残すことができるベターな体制である。問題は支所機能がいつどうなるのかと関連する。支所が現状通り残るならばBでもかまわないがそうはできないであろう。

○ 富樫会長

行政とコミ振は車の両輪に例えられるが、その姿はまだ明確ではなく総論的な議論をしている。また、住民自治が謳われているが、個人に関わる福祉や教育など問題は組織に埋没させるべきでもない。この問題について、本日結論を出すわけではないが、最後に行政の立場でまた市の執行部としての支所長の見解はどうか。

○ 支所長

委員各位が旧平田町のまちづくり、すなわち10分館を核とし平田ひとつとなったまちづくりが軌道に乗っていると感じておられること。また、少子高齢化の進展や歴史的まとまりを重視し、平田ひとつという気持ちにあるが、でもその課題も多いと認識されていると感じた。

今、市の財政支援制度が固まっていないことで、活動費や人件費など十分な判断材料を提供できない状況にある。ただ、人件費等の支援は基本的に組織ごとに行われるものだろう。今後、制度が固まった後、平田の良さ、各種団体と連携して今までの活動を維持していこうとしたとき、どの程度の住民負担となるかも明らかにできると考えている。まとめたものを提供するので判断していただきたい。

○ 齋藤委員

Cの場合でも人件費支援は1名分で、八幡・松山地域では各4コミ振となるので各4名分の支援というのは、基準だからしかたないとはならない。地域協議会として各組織

や議員にも協力いただき、複数分の支援を交渉していくことも必要ではないか。

○ 富樫会長

この件については今後協議したい。では、私からスケジュールについて申し上げるが、10月に予定されている合同検討会の前に、再度コミ振の件と本日協議できなかった地域づくり予算について、9月中本協議会を開催したいがいかがか。

○ 石川委員

農繁期であり、会議は夕方や夜間の開催を願いたい。

○ 富樫会長

石川委員の意見をふまえ、事務局と調整させていただいてよろしいか。

(一同異議なしの声。)

(2) 20年度地域づくり予算について

(次回、協議とする。)

7. その他

(若干の事務連絡等)

8. 閉 会

○ 菅原副会長

本日はコミ振に関して貴重な意見をいただき感謝申し上げます。前回からさらに一步前進できたように感じている。多忙な中ではあるが、また会議を持ちたいと考えているのでよろしく願いたい。傍聴の皆様もご苦労様でした。

(12:00閉会)

(注) コミュニティ振興組織=コミ振 として文中使用

コミ振結成パターンで、Cは平田ひとつ、Bは2～4程度の複数の組織化を行うもの

会議録署名委員